

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1272700343		
法人名	社会福祉法人エスポワールわが家		
事業所名	グループホームあらかのお家		
所在地	我孫子市新木1454-1		
自己評価作成日	令和6年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube
訪問調査日	令和6年3月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当グループホームは法人理事がデンマーク・スウェーデンの認知症介護視察をもとに我孫子市で初めて、千葉県では2番目に設立され、認知症になっても安心して地域で生活できることを目指しています。周囲の環境は、小学校及び地域の近隣センターに隣接しており、子どもの声を聴きながら日々のお散歩を積極的におこなっています。「ここは空気がよくて、毎日散歩に出かけてうれしい」と利用者様から感想をいただいています。食事は建物内で調理職員を別途配置し作っており、温かく家庭的な食事を提供しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

新型コロナウイルス5類移行後も基本的感染対策を取りながら、室内レクを中心にして利用者の楽しみや活動の幅を広げていけるように一丸となり取り組んでいます。また少しずつ近隣センターまでの散歩なども再開して、戸外での活動も増やしていけるように努めています。利用者が過ごしやすいように日々細心の注意を払いながら、全利用者が無理なく生活を送ることができるように、利用者のケアプランについても一人一人の状態に合わせて、丁寧に作成しています。全職員が利用者の支援目標を共有して、法人理念にもある「心の通った最高の介護環境の提供」を実現できるように取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居の長期化により身体介護の重度化が進んでいるが、一人ひとりを尊重する介護に努めている。	「心の通った最高の介護環境の提供」を理念として掲げています。理念は全職員に配布し全体で共有しているほか、実践に向けては研修を通じて職員のスキルを高め、最高の介護環境が提供できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年お声かけていただいていた隣接する小学校の運動会観覧等は、コロナ禍で中止となってしまったが、職員が地域会議や市の消防訓練に参加する等、少しずつ交流が戻ってきている。	地域の情報については、地域会議へ職員が参加した際に、地域の情報を収集しています。今年度は地域の防災訓練に職員が参加しています。今後は利用者が地域の方と交流できる機会を増やしていきたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面開催になることもあったが、現在は2か月に1回、直接お会いしての開催となっている。以前、会議内での要望を受けていただいた結果、休憩用のベンチを近隣センター敷地内に設置していただいたことがある。	会議は系列の3ホーム合同で実施しており、民生委員、町づくり協議会、市役所担当課、地域包括支援センター、地域住民代表者、家族の参加を受けて2ヶ月毎実施しています。介護保険改正においてや地域の高齢化や災害対策についての意見を交わしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加していただき、コロナ禍での対策や職員不足について等、実情を報告し、アドバイスをいただいている。	運営上相談事が生じた際には市の高齢者支援課へ連絡を入れて指示を仰いでいます。市役所の担当課からも空き室の状況について問い合わせを受けることもあるなど、互いに情報を共有して協力関係を築いて運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止について、法人全体で謳い事業所玄関に掲示している。各職員は職員会議等で研修をおこない、認識を高めている。玄関施錠はしていない。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、3ヶ月毎、身体拘束適正化委員会を理事を含めて実施し不適切なかかわり等が無いかについて確認しています。全職員に向けても身体拘束及び虐待防止研修を通して職員個々の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で、虐待防止の研修を行い、啓蒙に努めている。先日も、制度改定にともなう指針の整備等がおこなわれ、法人全体において統一認識がなされるよう努めている。		

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居者の方で成年後見制度を利用されている方がいる他、ご家族から相談があった場合は、役員に弁護士及び司法書士がおり、支援体制がとれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、家族に介護保険制度、利用料金、介護内容を1時間以上かけて丁寧に説明し同意を得ている。退去時の要件、入院した時の場合などできる事、出来ない事についても十分理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際、意見や要望の聞き取りに努めている。遠方のご家族には電話やメールで報告、相談をしている。	家族からの意向や要望については面会時やケアプラン説明時に確認しています。要望が上がった際には迅速に対応する体制としています。利用者からの意向等は日常会話から収集し、日常生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には、理事及び統括管理者が参加し、現場の声を直接聞いている他、事業所連絡会議が、管理者からの声を業務執行理事、理事、統括管理者に聞いていただく機会となっている。	職員からの意見や要望等については管理者が中心となり適宜職員からヒアリングを行い不安等がある場合には早期の解決に努めています。また必要に応じては、法人の事務長や理事にも入って頂き職員と面談する機会も設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特別処遇改善手当設けて、介護福祉士取得後、勤続年数10年のスタッフに毎月支給している。有給休暇の取りやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、介護記録ソフトの導入に向け、研修をおこなった他、どうしても習得に個人差が発生するため、少しずつ実地しながら導入しているところである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	我孫子市介護サービス事業者連絡協議会に加入している他、グループホーム分科会にも参加していたが、分科会がコロナ禍で開催されていない状況である。		

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に備え、利用者や家族から今までの生活状況、好きな食べ物・活動などの要望をしっかりと伺い、それに沿った内容で支援している。特にご本人の嫌いなこと、やってほしくないことに注目し、アセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接では利用者・家族ごとのそれまでの生活歴に着目し、家族間の関係や課題を把握するよう努めている。その後の面接や電話等で繰り返し話を伺うごとに理解と信頼を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には暫定ケアプランを作成して利用者・家族が必要としているサービスを見極めている。特に利用者毎の医療(提携医・訪問歯科)その他のサービスについて必要に応じて照会し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に合わせて食器洗い、食事の盛り付け、配膳下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、できることは利用者と共に支援することを心がけ利用者の介護予防としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特にコロナ禍での利用者の情報を密に提供する様に努めている。1か月毎のグループホームだよりでは各利用者毎に写真を添え、毎月の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でこれまでの地域での馴染みの関係やボランティアの訪問が途切れがちになっているが、戸外の散歩時には近隣の小学校や地域住民とのあいさつや声掛けでのふれあいを大切にしている。	馴染みの人や場所との関係性の継続に向けて、親族の方の面会を受けたり、友人との年賀状のやり取りなども継続するなどこれまでの関係性が継続できるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は各個別な居室に住みながらも日中はリビングルームに集まり、共同で生活を送っている。できるだけ利用者同士で交流しやすいよう各利用者の状況を見ながら座席を取り換えながら工夫している。		

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的ケアが必要な利用者は病院、療養施設に入院された後も、その後の様子を伺っている。お亡くなりになった利用者家族にはグリーフケアに努め、その後もご家族がグループホームに時折来訪されている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族との聞き取りや会話の中からひとり一人の思いや今までの生活歴、大切にしてきたことを把握し、介護計画に反映している。入居後、しばらくの間の不安や不穏に共感し対応している。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最近では自宅より入院・入所先に訪問し、面接する機会が増えているが、ご家族や病院・施設の関係者からの聞き取り・経過記録を参考にアセスメントしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを日課表にまとめ、本人やご家族に提示して確認いただいている。可能な限り戸外に出かけ、ホーム内では家事や移動で体をできるだけ動かすことを大切にして身体の重度化を予防している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で介護計画更新時のモニタリング・再アセスメントを行い、全員で介護計画を検討し、ヒヤリハットや事故も含めてスタッフからの意見を基に改善策を作成している。	アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、職員、家族、主治医等の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の進捗に関しては定期的にモニタリングを実施して確認しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者毎の介護日誌・バイタルサイン表・申し送り表を基に職員間で情報を共有している。ご自分の生活への意向を伝えられない利用者には記録の中での様子や言葉を本人の意向として表現している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での期間に隣接の小学校・近隣センターとの交流の機会が途切れてしまっているが、ご家族からの相談や近隣住民との声かけに応えている。			

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者は毎日の生活の中で小学校の子どもたちの声に励まされ、楽しみにされている。近隣センターの庭での体操やレクリエーションが定着し、顔なじみの住民の方々と声をかけあっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の内科受診・月2回の訪問歯科受診・希望者により訪問マッサージの施術を受けている。その他専門医の受診、かかりつけ医からの紹介により検査受診を支援し、医療連携している。	提携先医療機関による定期的訪問診療を通して必要な医療が受けられる体制としています。担当医とも良好な関係が築かれており、24時間連絡が取れる体制としていることで、利用者の体調変化時にも迅速な対応を可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師が勤務しており、常に情報を共有して対応している。特にコロナ患者の対応について看護師の指示の下で対応した。看護師は利用者の日頃の健康把握・医師との連携を中心に協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の急変時・入院時には利用者毎のサマリを提供し、医療に繋げている。入院期間中には病棟看護師との情報交換、退院時には医療からの情報提供を受けて利用者の健康の継続を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは利用者の入居期間が長く、次第に重度化され、看取りを希望される利用者・家族が多い。主治医の指示の下、ご家族の意向を確認し、担当者会議を重ねながら対応している。看取りを実施する時には家族と共にやっている。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際に意向調査を行い、ホームの指針については「看取り介護に関する説明書」、「看取り介護についての同意書」において丁寧に説明しています。ホームでは家族や主治医、職員が連携し、看取りのケアを行う体制としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備え、各利用者毎に連絡フローチャートを作成している。また看護師により利用者毎の情報を要約しファイル化して備えている。応急手当は看護師が指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害のBCPを作成し、職員間で協議している。災害時の炊飯訓練・災害時の給水訓練を実際に行っている。地域の避難所が隣接の小学校であり、訓練を協働している。	令和5年12月に地域の消防訓練に管理者が参加して初期消火の方法やAEDの使用について、備蓄倉庫の状況などを共有しています。事業継続計画も令和6年度に向けて整備を進めており、今後職員にも周知していく予定としています。	今後作成を終えた際、事業継続計画(BCP)については、実際に発動させた訓練などを通して職員の理解や意識をより深めていけるとよいと思います。

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排せつの際にはタオルでプライバシーを覆うなど常に尊厳を保持するよう努めている。接遇に関する課題は常にスタッフ間で注意しながら介護に当たっている。	利用者に対して不適切な対応が無いように、毎月のスタッフ会議の中で日頃の言動や行動を振り返るほか、内部研修を通して職員意識を高めています。排泄時に陰部を覆うタオルも個別に用意するなど羞恥心の配慮についても日々徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、その日着る洋服の選択・やりたい家事・レクリエーションを自己決定してもらえるよう、またははっきり断ることができるよう自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人手不足の中、利用者毎のペースに沿った支援の困難さが否めないが、できる限り利用者様主体で生活できるよう図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には自分で衣類を選び、整容し、おしゃれを楽しんでもらっている。支援が必要な方には楽しい気分で過ごせるよう鏡を見ながら身だしなみを保っている。おしゃれであることを伝え評価している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当ホームの良さはリビングに直結した調理室で毎食調理される食事である。利用者は盛り付け、配膳・下膳を行い、食器洗いやお盆拭きを手伝っている。美味しい三度の食事が何よりの楽しみとなっている。	調理担当職員を配置して栄養バランスの取れた食事を日々提供しています。利用者も野菜の皮むきや食器拭きなどに関わり、利用者への関わりを大切にしています。季節に合わせた行事食の提供や誕生日時のリクエストメニューなども食事の楽しみにつながっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量に合わせて食事・水分を提供している。嚥下状態に合わせてミキサー食、柔らか食を用意し、水分はジェルを利用したお茶を摂取いただいている。必要な方には総合栄養食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者毎に月2回～3か月に1回の訪問歯科治療を受けている。口腔ケアは一日4回実施、訪問歯科医師から当ホームの利用者の口腔ケアの実践のすばらしさを評価されている。		

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎に布パンツを中心にリハパン、パットを利用している。基本歩行できる方は日中は布パンツ+パットで過ごされている。介護予防を兼ね、どの方もトイレでの排泄を実践している。	日中は多くの利用者が布パンツを使用しており、トイレで排泄できるように支援しています。定時に声をかけることができおり、排泄の失敗などを防ぐことができます。排泄状況は手書きの記録のほかタブレット端末から専用の介護ソフトへ入力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として食事・水分・歩行(散歩)・処方薬で対応している。定期的に座薬を使用している方もあるが、いずれも日中に対応し、夜間時の失敗に繋がらないよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者にとっての楽しみごとで、浴槽浴・リフト浴・シャワー浴等楽しんでいる。利用者毎の入りたい時間があり、基本は週3日、個別に支援している。	入浴については、利用者の体調を考慮し、週に3日入浴できるように支援しています。入浴中は職員も介助につき安全面に配慮しています。リフトも設置していることで利用者の状態に合わせて活用することで入浴中の事故を防ぐことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者毎の就寝時間があり、個別に対応している。夜中まで読書をしている利用者には声をかけて休んでもらっている。睡眠状況は眠りスキャンで確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の配薬については看護師が管理している。誤薬が無いようにスタッフは常にダブルチェックで服薬支援をしている。服薬後の利用者の生活状態は常に主治医・専門医に経過を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の得意なこと、好きなことがあり、習字・編み物・読書など持てる力を発揮できるように支援している。いつでも書いたり描いたりできるように手元に材料を用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当ホームの長年の特徴は常に戸外に出かけることを日課にしていることである。家族の中には面会時、共に散歩されたり、ペットと共に戸外に連れ出されたりする方もあり、勧めている。戸外に出れば不穏状態の利用者もその後、気持ちよく過ごすことができる効果がある。	天候や気候の良い時期には、ホーム近隣のコミュニティセンターまでやホーム周辺の散歩に利用者をお連れして戸外に出かけられるように努めています。また家族が面会に訪れた際には、家族が近隣の散歩にお連れすることもあり、そうした時間を使用して家族との時間を大切にしています。	

グループホームあらかきのお家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは利用者の現金所持はしていない。コロナ禍でスーパーの買い物の機会もなくなり、お金を使いたい希望に残念ながら応じていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、家族に自由に通話されている方が2名。電話支援をしている方もいる。正月には知人・友人に年賀状を書かれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間であるリビングルームは広く、日当たりのよい設計となっている。回廊式の廊下には油絵が展示され、利用者にとって落ち着きのある空間となっている。夏の日差しや設備の老朽化を除けば居心地よく過ごせる空間といえる。	利用者が集うリビングは、日当たりも良く、畳のスペースには季節に応じた花を飾るなど季節感あふれた空間となっています。特に夏場は室温の上昇を防ぐため空調で調整をし、今後はさらに快適に過ごせるような工夫を施すことも予定しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間における各利用者の居場所は活動に合わせてテーブルを変えながら思い思いに過ごせる空間づくりを支援している。体調に合わせて居室とリビング・その他の空間で心地よく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室は使い慣れ、住み慣れた空間となっている。中には仏壇を持ち込まれている方もいる。スタッフと共にベッドメイキングや自室の掃除をされる方もあり、居心地よく過ごされている。	居室内においても居心地良く過ごせるように、本人の使い慣れた家具や愛用品の持ち込みを可能とし、利用前の生活が持続できるように配慮しています。日中居室で過ごす時間は少ないですが、愛用品の持ち込みを可能とすることで落ち着ける空間としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札は習字の得意な利用者がかかれたもので、一目で自分の部屋が認識できる。トイレの場所がわからない方のためにははっきり文字でと表示している。		